

条例改正

- 特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正
- 税条例の一部を改正
- 国民健康保険条例の一部を改正
- 国民健康保険条例の一部を改正

予算

- 平成21年度一般会計補正予算（7月・9月）
- 9月補正予算中、道路新設改良費9千950万円のうち主なものは何か？
- 深原の町有地活用に伴う委託料である。
- 反対討論→深原町有地は開発の価値がなく、現在の社会情勢では売却困難。また、保安林の開発は、下流住民の生命・財産に危険を及ぼすことになりかねない。
- 採決の結果、賛成多数で原案どおり可決された。

決算

- 平成21年度各特別会計等補正予算（国保・老人保健・下水・後期高齢者・介護保険・上水）
- 平成20年度決算認定（P2参照）

報告

- 平成20年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率報告書（P3参照）
- 広島県市町総合事務組合規約の一部改正

同意

- 熊野町教育委員会委員 菅尾寛治

その他

- 字の区域廃止及び名称の変更について（平谷・貴船・柿迫・東山・神田・石神）

産業建設委員会を開催

8月19日に産業建設委員会を開催した。協議内容は、平成21年度広島県議会建設委員会第1回県内調査に係る提案について。町内の県道や砂防河川に対する県への要望などについて協議を重ね、最終的に建設部の案に同意した。

文教委員会を開催

8月26日に文教委員会を開催した。協議内容は、平成21年度教育要覧について、及び昨年度事業の成果について。教育部より説明があり、その後、委員から質問をする形で協議は進められた。

広島県町議会議員研修会

8月28日、広島市内で開催された「広島県町議会議員研修会」に多数の議員が参加した。関西学院大学教授の小西砂千夫氏による

「地方財政問題について」と、テレビ解説員の辛坊治郎氏による「これからの政治・経済を読む」の2つの題目のもと、現在の国政の状況や見通しなどについて講演を受けた。

故元熊野町長南崎高市氏の逝去に想う

昭和40年代から始まった、熊野町の基盤整備事業、中学校の新・改築、矢野安浦線の新設、都市計画の線引等々、その功績は誰もが認めるところである。

私は新人議員の時から、何度も南崎氏の胸を借りた。その度ごとに突き返されたことを鮮明に覚えている。私はここ10年、畏敬の念を持って接することができた。かつて熊野町は、良きにつけ悪しきにつけ政争の町であった。他人の前で町政のことすら語ることが、阻まれる時代もあった。しかし、南崎氏の高邁な理想と勇氣ある決断で毅然と立ち上がった。さぞかし自らもまた、周囲からも大きな抵抗があったろうと容易に想像できる。これで静かな熊野が取り戻せる…と本心に有難かった。

氏自身の健康がすぐれないときも、一度演壇に立つや、その弁は真髓を語り、覚者その人に感じたものであります。お陰さまで、熊野町に次世代にも通じる大きな道を敷設していただいたことに、心から感謝している一人であります。今は、公正・無私だった南崎氏の精神を継承することこそ、御霊に報いることだと思っています。故南崎高市氏に謹んで哀悼の意を捧げます。合掌。

熊野町議会議長 尺田公造

車から降り立つと、つい先日筆まつりでのにぎわいがうそのような静寂に包まれる。ここは、神山神社。熊野本宮社前。今回は、熊野本宮社の拝殿前に座っている一対のかわいらしい石造物「狛犬」をご紹介します。



熊野本宮社の狛犬

狛犬とは、神社に奉納された空想上の守護獣。そもそも狛犬のルーツは古代オリエント文明まで遡り、力の象徴としてライオンを傍に置く風習がシルクロードを経て、中国（高麗）から日本にやってきた。日本では、8世紀頃、遣唐使が宮中に持ち帰ったのが始まりで、その後、平安時代後期には神社を守る獅子像として定着していったといわれている。

向かって右側、口を開いている獅子を「阿形」。左側の口閉じている狛犬を「吽形」といい、当初は、それぞれ「雄を獅子」「雌を狛犬」と区別して呼んでいたそう。例えば、二人の人物が呼吸まで合わせるかのように共に行動する様子を「阿吽（あ・うん）」の呼吸というが、ここからきているようである。



雄の獅子



雌にしがみついている狛犬

さて、熊野本宮社前の狛犬をよく見ると、なにより玉に必死でしがみついている子ども狛犬を発見！ふむふむ、向かって左なので、こちらがお母さんである。小さな子どもがなんともしらしい。台座の石には、ネズミがダイコンを狙っている絵も刻まれている。

はて、こんなユーモアのある狛犬をどなたが奉納されたのだろうか。大正4年「願主 道土井玉吉」と刻んである。そこで、ご子孫の道土井晋さん（67歳）にお話を伺った。聞けば玉吉さんは、道土井晋さんの祖父にあたる方。当時、米屋や肥料屋を営んで財を成された玉吉さんは、大のお宮好き。しかも四国のお遍路さんへご夫妻で出向かれてからは、大の弘法大師好きになられたそうである。そこで当時、お宮の氏子総代でもあった玉吉さんは、願主として大正4年にこの



石玉垣

狛犬をご寄付されたそうである。玉に乗っているのは、中国の故事に由来して「良い事がいつまでも続く」という意味。子どもがいるのは、もちろん「子孫繁栄」を願って。そして、台座にネズミがダイコンを狙っている絵が刻んであるのは、「豊作」を願って造られている。なるほど、一対の狛犬の中に、いろいろな願いが込められているようである。

そして、熊野本宮前の狛犬を後にして、横の神山神社へ向かっていくと、ここには、熊野町の重要文化財に指定されている珍しい石造物、「石玉垣」がある。石玉垣の前には、説明看板が立っている。造作上、古い時代の特色が良く表れており、作成年代が刻印によって明確であるこのような石玉垣は稀であるという。ここにも、貴重な石造物を発見！

熊野の宮は、宝物がいっぱいですね。もうすぐみじも色付きそうです。秋の一日、かわいらしい狛犬を見つけに出かけてみてはいかがでしょう。

取材 伊藤真由美

発見！熊野町の「工工」ところ。 シリーズ 第20回

全国各地にある名所や名物。もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工工ところ」を紹介するコーナーです。

こま いぬ
「狛犬」～ vol. 4 シリーズ石造物～